



畜産技術センター ニュース

第2号 2006年6月15日

研究情報

畜産工学部

こんなこともしています

採卵鶏に優しい飼養管理技術の確立に向けて

これまで採卵鶏では、卵を効率的に生産することを目的とした飼養技術が重要視されてきましたが、これからは鶏に対して優しく快適な飼養技術、という視点も必要となります。

そこで、当センターでは、麻布大学との共同研究により、平成17年度から「採卵鶏の福祉的な飼養技術に関する試験」に取り組んでいます。



鶏舎から行き来自由な野外放牧場(上)と自由にクローバーをついばむ鶏(左)

福祉型ケージを用いた研究のほか、平成18年5月からは、新たに、鶏が自分の意志で自由に屋外に出て、牧草(白クローバー)をついばむことができるよう、平飼い鶏舎の横にネットで覆った屋外放牧場を設置し、鶏の行動や産卵率の違いなどを調べています。

ご参加ください

「おもしろ科学教室」の開催 ～尿をきれいにする微生物のひみつ～

当センターでは「かながわサイエンスサマー」事業の一環として、毎年夏休み期間の小学生を対象に、畜産の知識について学ぶ「おもしろ科学教室」を開催しています。

今年は...牛や豚とふれあいながら、えさの量やふん・尿の量を計ってみよう!

尿をきれいにする微生物のひみつを探ったり、簡単な工作でペットボトルの透視度計を作ってみよう!

日時 平成18年8月23日(水) 9:30~12:00
対象 小学校4~6年生 約20名
応募方法 平成18年8月14日(月)までに「往復はがき」に住所・氏名・学年・電話番号を明記のうえ送付してください。
送付先 〒243-0417 海老名市本郷3750 神奈川県畜産技術センター企画経営部

神奈川県
元気なあいさつで明るい地域社会をつくらう
7月は神奈川県
あいさつ一新運動
強化月間

あん きょ かん

暗渠管を利用した省力型の簡易堆肥化技術の実証

家畜ふんの堆肥化では、切り返しや水分・比重調整で通気性を確保し、良好な堆肥化発酵を進めることが重要ですが、「労力不足」や「副資材の入手困難」などで堆肥化処理に頭を悩ませている畜産農家の方も多いと思います。また、コストもかけたくない部分です。

そこで、当センターでは簡易で省力的・低コストな堆肥化技術として、暗渠管（暗渠排水用の土木用資材）を使用し、約6ヶ月間、切り返しをせずに家畜ふんを堆肥化する実証試験を行ったので概要を紹介します。



暗渠管を埋設したところ



使用した暗渠管

使用した暗渠管の特徴は、全面が網目状で通気性が高く、高密度ポリエチレン製のため軽量で、取扱いや加工も容易な点です。家畜ふんの堆積時にこの暗渠管を埋設することで、切り返しをしなくても堆積物の通気性を確保できます。

試験の結果、堆積物全体に堆肥化発酵が進み、有機物分解率も31.7%と高くなりました。さらに、暗渠管を通して水分の蒸散も進み、堆肥化後の水分は40.4%になりました（暗渠管なしの対照区では有機物分解率11.6%、水分44.0%）。

暗渠管は内径65mmのもので400円/m程度と低価格なうえ、埋設するだけなので、ランニングコストはゼロです。

当センター普及指導部を通じて技術の普及を図っていますので、関心のある方はご連絡ください。

現地情報

普及指導部

畜産後継者グループの支援

（社）神奈川県養豚協会青年部では平成17年度から、部員相互の養豚技術向上、特に飼養管理と発育の改善を目的として生産技術向上研究会を開催しており、当センター普及指導部では畜産工学部とともに、全農神奈川畜産部・（社）神奈川県畜産会と連携し、この活動を支援しています。

平成17年度は6回の会合を持ち、調査に参加した6農場が冬期の肥育豚について、発育ステージ毎の発育成績を持ち寄り、標準的な発育との比較や、発育遅延の原因・改善方法、各農場における問題点等を参加者全員で相互に評価検討しあいました。年齢の近い仲間と、「自分のやっていること・知っていること」についての情報交換できたことや、アドバイザーとして参加した先輩農家の長年の経験に裏打ちされた助言により、作業の一つ一つにちゃんと意味があることを理解できたことは、若い参加者にとって貴重な経験となりました。

なお、疾病予防の関係上、青年部部員が相互の農場を訪問する事は難しいため、当センター職員と関係機関で調査（写真）をし、研究会でのアドバイス等も含め、活動を支援しています。

この研究会の活動について、今年3月に東京都武蔵野市で開催された日本養豚学会で、青年部の代表が成果を発表しました。

今年度は調査参加農場も増え、10農場で夏期の肥育豚の調査を開始しており、さらに活発な活動ができるよう、青年部・関係機関一丸となって取り組んでいます。



発育調査のようす

畜産技術センターニュース
第2号

平成18年6月15日

発行 神奈川県畜産技術センター

〒243-0417 海老名市本郷3750

電話(046)238-4056 FAX (046)238-8634

E-mail tikuken.1622@pref.kanagawa.jp

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/chikusanken/index.asp>